

美術科学習指導案

日時 平成23年5月27日(金)第2校時
対象 1年1組(男子20名 女子20名 計40名)
指導者 教諭 濱川 達一

1 題材 1年 墨による抽象表現

2 題材名 「墨で広がれ！わたしの思い～遠足の思い出～」

3 題材設定の理由

(1) 題材観

日本で最初に墨がつくられたのは、遣唐使として唐へ行った空海が筆とともにその製法を806年に日本へ持ち帰り、奈良で製造されたころと言われている。墨は、中国から伝わって来て以来、芸術(書や水墨画)の世界で表現のための材料として私たちの生活に浸透していった。

墨が生み出す世界では、色味のない白と黒というミニマムな要素の中で、墨と水とが生み出すにじみやかすれ、濃淡という墨色の調子を駆使することで深い表現を行うことができる。また、筆を使って表現する墨の世界では、ごまかしがきかないため、作者は、感覚を研ぎ澄まして画面との対話を行いながら表すことが求められる。さらに、見る者は、視覚以外の感覚も使って、心の目で情景を感じ取ることができるよさをもっている。

今回の新学習指導要領の改訂では、教育基本法の改正で、教育の目標に伝統と文化を尊重する態度を養うことが規定された。このことより、美術においても、受け継がれてきたものを鑑賞することによって、文化の継承と創造の重要性を理解するとともに、美術を通じた国際理解につながるように指導していくことが目標に掲げられている。

本題材は、体験を基に感じたことや考えたことから主題を生みだし、その主題を表現するために墨を材料として墨の濃淡や点や線の太さ、にじみやかすれ等に自分なりの根拠を明確にもって抽象表現する表現題材である。抽象表現では、具体的な対象を描いた絵画ではなく、色や形、画材の物質感そのものの造形的な美しさや感情的な効果を表現するため、写実的な表現へのあこがれの高まりとともに、絵に表す活動に苦手意識が高まりつつある生徒にとって、比較的に取組やすい題材である。また、お互いが生み出した作品の鑑賞を行うことで、自分なりの見方・感じ方を大切にしながら様々な発想や表現の工夫、そして墨という描画素材の持つ魅力や可能性を味わうことができる題材である。

(2) 指導観

本校の生徒の実態として、表現活動において、「発想や構想の場面」「実際の制作の場面」に対して苦手意識をもっている生徒が多く、このことが生徒の表現活動の妨げになっているという現状がある。そのため、本題材「墨で広がれ！わたしの思い～遠足の思い出～」では、抽象表現を通して、表現への意欲を高めるとともに、生徒の発想や構想の能力の高まりを目指すことにした。

題材の導入場面では、参考作品を大型モニターで提示し、作品から感じたことについて根拠をもって味わわせていく。この学習過程を通して、作者の主題と発想の仕方、表現の方法についての理解が深まるように指導にあたりたい。

題材の展開の場面では、はじめに表現活動の根幹にあたる主題を生み出させていく。生徒にとって発想・構想の場面の中でも、主題を生み出す場面に対して苦手意識が強い。そのため、本題材では、生徒全員が共通に体験した遠足の中から、印象に残ったことや感じたことを基に主題を設定させていく。主題を発想させるにあたっては、遠足のときの写真を提示することで、活動を振り返り

やすくする。また、思いついた主題の候補について、ワークシートに記録させることで、視覚を通して自分の中でイメージを広げ、決定しやすくなるようにする。

主題に基づく発想の場面では、今回使用する描画材「墨」の表現技法を習得させ、主題と表現技法との関係を感じ取らせながら、作品づくりへの発想が行いやすいようにエスキースづくりを位置付ける。なお、制作時間の都合上、墨本来のよさは失われるが、描画材としては墨汁を利用する。

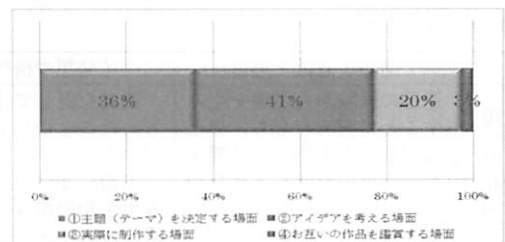
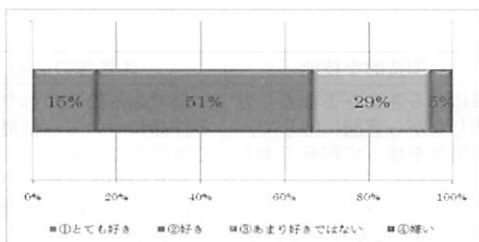
これらの活動を通して生み出されたエスキースについて、小グループによる紹介を行う活動（言語活動）に取り組みさせることで、自分自身の作品と向き合ったり、友達の主題と作品との関係を読み解いたりする中で、発想や構想が深まり、広がるように指導にあたりたい。

今回の作品づくりでは、最終的に支持体として色紙を使用し、生徒が緊張感をもって、自らが発想、構想したことを見通しをもって表現させていく。完成した作品の鑑賞場面では、発想や構想の場面で行ったメンバーとは異なる小グループで自らの作品を紹介したり、お互いの作品を鑑賞し合ったりすることで、更なる発想や構想の広がりや題材終了後の創作への意欲向上へとつながるように指導にあたりたい。

(3) 生徒の実態

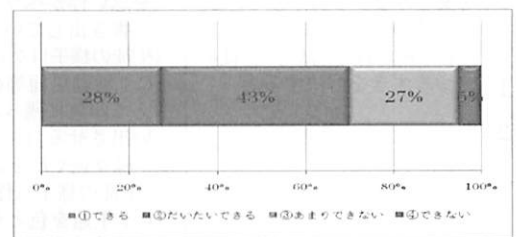
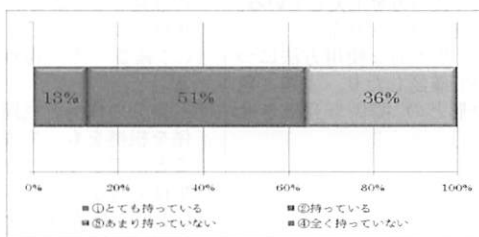
本時の指導に先立ちアンケート調査を行った結果を示す。(対象は附属中学校1年1組40名 4月20日実施)

- ① あなたは、絵を描くことが好きですか。 ③ 作品づくり（表現）のときに、あなたにとって最も難しい場面はどの場面ですか。



- ② 作品づくりに対してあなたはこだわりをもって取り組んでいますか。

- ④ あなたは、自分の作りだした作品について友達や先生にその作品について説明することができますか。



本学級の生徒たちは、大変に活発で、意欲的に授業に取り組んでおり、86%の生徒が美術の学習に対して「とても好き」「好き」と回答している。表現の学習の中で絵に表す学習に関する①の問いに対しては、34%の生徒が「あまり好きではない」と回答している。その理由としては、「絵を描くことが苦手」「下手だから」というようなものが大部分であった。また、作品づくりへのこだわりに関する問い②に対して、①で「あまり好きではない」を選んだ生徒の67%の生徒が「あまりもっていない」「まったくもっていない」という回答を示した。さらに、④の自分の作品について解説することに関する問いにおいても同じく67%の生徒が「あまりできない」「できない」と回答した。このことより、美術の学習に対する興味・関心と作品づくりへのこだわりや作品について説明することには少なからず関連があるのではないかと考えられる。作品づくり（表現）の過程に関する③の問いに対しては、主題（テーマ）の設定が36%、アイデアを考えるが41%、実際の制作が20%の生徒が難しいと感じていることが分かった。墨で絵を描いた経験については、書道の時間や筆ペンで年賀状を書く時に描いた経験があると回答している。

これらの生徒の実態を念頭におきながら、生徒の主題設定やアイデアを考える場面への苦手意識

を払拭し、主題に基づき表現することの難しい面や楽しさの面を感じ取るような授業づくりをしていきたい。

4 題材の指導目標

(1) 美術への関心・意欲・態度

経験に基づいた墨による抽象表現への興味・関心をもたせる。

(2) 発想や構想の能力

体験を基に、感じたことや考えた事から主題を生みだし、墨と水が生み出す形や色の組み合わせを、思いを膨らませながら構想を練ることができるようにする。

(3) 創造的な技能

材料や用具の効果的な生かし方を考え、自分の意図する形や色に近づけるように創意工夫して表現することができる。

(4) 鑑賞の能力

自分の作品に対する思いや考えを説明したり、お互いの作品鑑賞を通したりして、作者の心情や表現の工夫を味わうことができるようにする。

5 題材の評価規準及び単位時間の評価基準

※単位時間の評価基準については「おおむね満足できる：B」とする場合の基準とする。()は、評価の対象、[C:]はBに到達しない生徒への手だてとする。

	ア関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規準	遠足の経験から主題を生み出すことに興味をもち、墨と水が生み出す形や色に興味をもって思いを膨らませながら絵に表すことに取り組んでいる。	遠足を通して感じたことや考えたことから主題を発想している。 主題に基づいて墨と水が生み出す形の組み合わせや色の濃淡からイメージを広げようとしている。	墨によるさまざまな表し方を試しながら意図に応じて、筆や用具を使って創意工夫しながら表現している。 墨の特性を感じ取りながら見直しをもって制作している。	墨で生み出した形や色による作品について、根拠をもって説明している。 お互いが生み出した作品について、自分なりの根拠をもって読み取るようとしている。
時	単位時間の評価規準及び生徒への手だて			
1/2	① 墨と水が生み出す色や形を楽しみながら制作している。(生徒の反応)(作品) [C:声かけを行い、生徒のつまづきを解決する。]	① 遠足で印象に残ったことを思い浮かべワークシートに書き出している。(生徒の様子)(クローカー帳) [C:活動場面等の視点を与えて印象に残った場面を思い出させる。] ② 様々な色や形を試している。(生徒の様子)(作品) [C:主題を色と形でどのように表すか問う。]	① 主題に基づき、墨の濃淡、筆の使い方を工夫している。(生徒の様子)(作品) [C:基本的な使用方法について確認したり、主題と色や形との関係を意識させる。]	① 参考作品を鑑賞して自分の意見をもつことができる。(生徒の反応) [C:鑑賞の際の視点を与える。] ② 自分の作品と主題との関係を根拠をもって説明することができる。(生徒の様子) [C:形や色の意味を振り返らせる。]
2/2	② 主題と墨と水が生み出す色やかたちの関係を意識しながら描いている。(生徒の様子)(作品) [C:別紙に練習をさせ、確認させる。]		② 主題に基づいて色づくりや制作に計画的に取り組んでいる。(生徒の様子)(作品) [C:制作意図について確認し、墨の濃度調整についてアドバイスする。] [C:制作意図について確認し、制作のイメージを聞く。]	③ 友達作品に対して根拠をもって自分の意見を伝えている。 [C:作品を見る際の視点を与える。]

6 題材の指導計画

(1) 本校の研究内容との関連から(全体緒論の手だてと教科論文、本時の手だてとの関連)

研究の視点 I

全体論 思考と表現の一体化を充実させるための学習活動 P 7-1-(1)

教科論 発想や構想を広げる指導の工夫 P 6-6-(1)-イ-(イ)

本時の手だて①

題材の導入場面で、生徒の題材への関心・意欲を高めるとともに、共通事項や造形言語、既習事項等を視点として与えながら対話を通して作者の表現意図や表現上の工夫に気付かせたり、意識させたりすることでこれから取り組む学習において発想が広がるようにする。

研究の視点Ⅱ

- 全体論 思考と表現の一体化を充実させるための学習活動 P 7-1-(1)
 教科論 発想や構想の場面における言語活動 P 6-6-(1)-ウ-(イ)

本時の手だて②

主題に基づき作成したエスキースについて、造形言語や習得した知識・技能、新たな知識・技能等の視点で根拠を明確にし、ことばで友達に説明したり、質問したりする言語活動に取り組ませることで、新たな考えを作品づくりの発想に取り入れ、発想や構想が深まり、広がっていくようにする。

研究の視点Ⅲ

- 全体論 見直し・振り返りのための工夫 P 10-2-(3)
 教科論 自己評価カードの工夫 P 9-6-(2)-ウ

本時の手だて③

評価規準や評価基準とつながりのある基準に基づく自己評価カードを作成することにより、生徒自身による達成度の把握とともに、自己評価カードから得られた生徒の学びに関する情報を次の指導に生かせるようにする。

また、オリエンテーションで自己評価カードを配布し、指導することで学習に対する見通しがもてるようにする。

研究の視点Ⅳ

- 全体論 評価規準表の作成 P 11-2-(4)
 教科論 指導に生かす評価規準表の作成 P 8-6-(2)-ア

本時の手だて③

指導と評価の一体化を一層進めるために、題材における評価規準及び、それをみとるための評価基準を作成し、指導にあたる。

(2) 指導計画 (全体 2 時間 : 本時 1 / 2)

時間	学習内容	指導上の留意点
1 (本時)	1 参考作品を鑑賞し、作品から感じ取ったことを発表する。 2 学習課題を把握する。 3 遠足について振り返り、印象に残ったことから抽象で表現するための主題を考える。 4 材料や用具の基本的な使い方について理解を深める。 5 様々な表現方法を試しながら作品づくりの構想を練る。 6 作品の構想について小グループで意見交換を行う。 7 作品の構想を練り直す。 8 本時の学習を振り返り、自己評価を行う。	○ プロジェクターを使って学級全体で作品を鑑賞させる。 ○ 形や色から感じ取ったことを発表させる。 ○ 遠足のときの写真を提示し、経験したことを想起しやすくする。 ○ 主題について思いついたことを書き出させ、その中から一番印象に残ったことを主題として決定させる。 ○ 墨による表現の基本的なことについて説明する。 ○ 主題を意識させながら、 <u>墨の色、墨で描く形の関係を意識させながら様々な表現方法に挑戦させる。</u> ○ 小グループで自分の作品について根拠をもって説明させる。 ○ 意見交換をさせる。 ○ 友達の自分自身の説明や友達の意見を基に作品の構想を再考させる。
1	9 前回描いた作品を鑑賞し、作品づくりの見直しをもつ。 10 本番に向けて作品を作り込む。 11 色紙に作品を制作する。 12 片付けを行い、作品についての思い出を文章でまとめる。 13 新たな小グループでお互いの作品を紹介し合う。 14 自己評価を行う。	○ <u>前回つくった作品を鑑賞させ、自分自身の作品づくりの見直しをもたせ文章でまとめさせる。</u> ○ <u>墨が生み出す色や形を確認させる。</u> ○ 主題を想起させ、本番に臨ませる。 ○ 身の回りの整理整頓をさせ、鑑賞会の準備を行わせる。 ○ 新たな小グループを編成する。 ○ 自分なりの根拠をもって <u>鑑賞させ、作品についての意見交換をさせる。</u> ○ <u>墨による抽象表現の学習を振り返らせ、感想を発表させる。</u>

7 本時の実際 (1/1)

(1) 指導目標

- ア 墨と水とが生み出す色や筆等で描かれる形づくりに楽しみながら取り組めるようにする。
【関心・意欲・態度】
- イ 遠足を振り返り主題を生みだし、エスキースづくりを通して、作品づくりの発想や構想を広げることができるようにする。
【発想や構想の能力】
- ウ 主題に基づき、墨の濃淡や筆の使い方を工夫して表現することができるようにする。
【創造的な技能】
- エ エスキースについて根拠をもって説明したり、友達の作品に質問したり出来るようにする。
【鑑賞の能力】

(2) 準備するもの

- ア： 教科書，資料集，参考資料，紙（半紙），新聞紙，水入れ，梅皿，モニター，パソコン
イ： 教科書，資料集，筆記用具，毛筆の筆，墨（墨汁）

(3) 展開

過程	時間	主な学習活動と生徒の意識	形態	指導上の留意点と評価の手だて
導入	5	<p>はじまり</p> <p>1 参考作品を鑑賞し，作品から感じ取ったことを発表する。</p> <p>・墨だ ・何が描いてあるんだろう</p>	一斉	<p>研究の視点Ⅰ発想を広げる指導の工夫</p> <p>○ 大型モニターを使って学級全体で作品を鑑賞させる。</p> <p>○ 形や色から感じ取ったことを発表させる。</p> <p>【評価基準】エ-① 参考作品を鑑賞して自分の意見をもつことができる。(生徒の反応) [C: 鑑賞の際の視点を与える。]</p>
	5	<p>2 学習課題及び今日の目標を把握する。</p> <p>学習課題：印象に残ったことを基に，墨と水で，形や色を工夫して表そう。</p> <p>今日の目標：気持ちを表す，形や色をみつけよう</p>	一斉	
	7	<p>3 遠足について振り返り，印象に残ったことから抽象で表現するための主題を考える。</p> <p>・遠行→苦しかったけど達成感 ・新入生を迎える会→活気</p>	個	
展開	5	<p>4 材料や用具の基本的な使い方について理解を深める。</p> <p>・水の量で色が変化するな ・筆の使い方を工夫してみよう</p>	一斉	<p>○ 遠足のときの写真を提示し，経験したことを想起しやすくする。</p> <p>○ 主題について思いついたことを書き出させ，その中から一番印象に残ったことを主題として決定させる。</p> <p>【評価基準】ア-① 遠足で印象に残ったことを思い浮かべクロッキー帳に書き出している。(生徒の様子) (クロッキー帳) [C: 活動場面等の視点を与えて印象に残った場面を思い出させる。]</p> <p>○ 墨による表現の基本的なことについて説明する。</p> <p>○ 主題を意識させながら，墨の色，墨で描く形の関係を意識させながら様々な表現方法に挑戦させる。</p> <p>【評価基準】ア-② 様々な色や形を試している。(生徒の様子) (作品) [C: 主題を色と形でどのように表すか問う。]</p> <p>【評価基準】ウ-① 主題に基づき，墨の濃淡，筆の使い方を工夫している。(生徒の様子) (作品) [C: 基本的な使用方法について確認したり，主題と色や形との関係を意識させる。]</p>
	12	<p>5 様々な表現方法を試しながら作品づくりの構想を練る。</p> <p>・うれしさの形はどんなかたかな ・うれしさの色はどんな色かな</p>	個	
	7	<p>6 作品の構想について小グループで意見交換を行う。</p> <p>・〇〇君のにじみの表現がいいな ・ここはしっかり伝えたいな</p>	グループ	
終末	5	<p>7 作品の構想を練り直す。</p> <p>・もう一工夫してみよう</p>	個	<p>研究の視点Ⅱ発想や構想の場面における言語活動の充実</p> <p>○ 小グループで自分の作品について根拠をもって説明させる。</p> <p>○ 意見交換をさせる。</p> <p>【評価基準】エ-② 自分の作品と主題との関係を根拠をもって説明することができる。(生徒の様子) [C: 形や色の意味を振り返らせる。]</p> <p>○ 友達の前自身の説明や友達の意見を基に作品の構想を再考させる。</p>
	4	<p>8 本時の学習を振り返り，自己評価を行う。</p> <p>おわり</p>	一斉	